



SNS上の「悪意」を排したい

福岡いのちの電話評議員

宮崎昌治

(西日本新聞編集局社会部長)



「この度、娘がこのような事件にまきこまれた事が未だ信ずることが出来ません。私は親として、娘を守ってやる事が出来ませんでした。最後の親のつとめとして、娘をこれ以上、世間のさらし者にしたくありません。ただ、ただ、出来るだけ静かに見送ってやりたいのです。どうかお察してください」(原文のママ)

これは、神奈川県座間市のアパートで昨年10月、9人の遺体が見つかった事件の被害者遺族が報道機関宛てに出した要請書の一つだ。ほぼ全ての遺族が同じような要請書を出し、被害者の実名や顔写真を報道しないよう求めた。いずれの文面も、遺族の苦悩がにじむ。実名、顔写真報道の是非を論じるのは本稿の主題ではないので避けるが、手元にある被害者の顔写真をあらためて1人ひとり見ると、若い笑顔がその後たどった恐怖や残忍な結末を思い、胸がつぶれそうになる。

被害者は、15歳から26歳までの若者だった。この事件の特徴は、自殺志願があった若者が会員制交流サイト(SNS)に悩みや気持ちを書き込み、悪用されたことだ。逮捕された被告は「首吊り士」というアカウント名で、被害者を言葉巧みに誘い込み、凶行に及んでいた。

総務省の昨年の調査で、若者のコミュニケーション手段は圧倒的にSNSとなっている実態が明らかになった。10代の8割超がLINE(ライン)を利用していた。座間事件の被害者が、SNS上で「首吊り士」ではなく、自殺防止に取り組む個人や支援団体と出会っていたら、と悔やまれる。「チャイルドライン」や「BONDプロジェクト」など多くの支援団体がSNS上で活動している。いのちの電話もSNS上での相談受け付けを行っている(注:チャット相談を年2回トライアル中)。行政機関も、子どもの自殺が多い夏休み明け前後にSNS上での相談を受け付ける試みを始めている。座間事件の被害者と異なり、これで救われた若者も多くいるはずだ。

匿名性が高いインターネット空間には善意と悪意が混在する。救いを求める若者が、偶然の出会いでその生死を分けるような事態は何としても避けたい。悪意に引き込まれる偶然を排し、善意に出会うことを必然とできないものか。

私にも高校生と中学生の子どもがいる。親とあまり話さず、食事中もスマホを手放さない彼らの指先にあるLINEの文字が気になる、1人の父親の思いでもある。

このたびの「平成30年7月豪雨」や北海道地震などで被害に遭われたみなさまに、謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧復興を心よりお祈り申し上げます。

2018年度

福岡いのちの電話第31回会員総会を開催しました

2018年7月7日(土)九州キリスト教会館4階ホールにて行われた、第31回会員総会には、ボランティア員、資金援助会員、法人役員、後援会役員が参加しました。



馬頭琴を演奏するマイラス氏

総会に先立ち、馬頭琴演奏によるコンサートが行われました。演奏者は内モンゴル自治区出身のマイラス氏。「モンゴル大草原の風を感じて」と題しモンゴルをはじめ日本の歌も披露されました。また、聞く機会が少ない「ホーミー（喉歌と呼ばれる独特の歌唱法）」も歌われ、ひときわ大きい拍手がありました。

総会では、2017年度の事業報告、決算報告及び監査報告、続いて各委員会・活動班からの報告があり、多様な活動の様子が伺えました。委員会・活動班会には、教育委員会、スーパーバイザー会、相談活動運営委員会、電話ボランティア養成サポーター会、研修運営班、広報活動班、社会資源研究班、受信資料検討班、インターネット相談活動班、事業ボランティア会、理事会、評議員会、後援会がありそれぞれの役割を担っています。

総会の最後に電話ボランティア員の多回担当達成者披露がありました。1,300回の方をはじめ、100回ごとの節目の方々を紹介されました。

福岡いのちの電話法人役員紹介

- 理事長 林 幹男 (九州情報大学副学長、臨床心理士)
- 副理事長 濱生 正直 (学校法人九州聖公学園理事長、牧師)
- 常務理事 五斗美代子 (元福岡市部長、臨床心理士)
- 理事 五十嵐 実 ((株)福岡住宅センター 代表取締役社長)
- 〃 林 覚竜 (南蔵院副住職)
- 〃 久保 千春 (九州大学総長、医師)
- 〃 川崎 弘昭 (福岡大学教授、医師)
- 〃 楯林 英晴 (福岡県精神保健福祉センター所長、医師)
- 〃 待井 弘道 (西部ガス・カスタマーサービス(株)代表取締役社長)
- 〃 長谷川 彰 (西日本新聞社編集局生活特報部長)
- 〃 鉄崎 廣生 (相談活動運営委員長)
- 〃 松原 妙子 (警固法律事務所 弁護士)
- 評議員 権藤 説子 (九州合同税務会計権藤説子事務所代表社員、税理士)
- 〃 宗 寿彦 ((株)ふくや 網の目コミュニケーション室マネージャー)
- 〃 高石 彰也 (正門寺元住職、西本願寺ビハラー福岡心の電話顧問)
- 〃 石井 美栄 (福岡市西区保健福祉センター所長)
- 〃 杉田 俊介 (杉田脳神経外科クリニック院長、医師)
- 〃 高本 英一 (福岡市市民局男女共同参画部長)
- 〃 藤田 宗春 (ボランティア代表)
- 〃 大堤 智子 (福岡県人づくり・県民生活部青少年育成課支援係長)
- 〃 宮崎 昌治 (西日本新聞社編集局社会部長)
- 〃 張 正好 (福岡市社会福祉協議会、地域福祉専門員)
- 〃 森住 勝子 (福岡市民生委員・児童委員協議会会長)
- 〃 野田フミコ (福岡県更生保護女性会会長)
- 〃 岡部 洋子 (ボランティア代表)
- 〃 後藤 哲也 (後藤クリニック顧問、医師)
- 〃 福島あい子 (弁護士)
- 〃 藤林 武史 (福岡市こども総合センター所長、医師)
- 〃 本田 洋子 (福岡市精神保健福祉センター所長、医師)
- 〃 山田 久雄 ((株)九州エース電研代表取締役)
- 〃 小山千賀子 (ボランティア代表)
- 〃 中尾 敦子 (ボランティア代表)
- 監事 川野 康之 (川野公認会計士事務所、公認会計士)
- 〃 吉野 正 (吉野・宮下法律事務所、弁護士)
- 顧問 中川 哲也 (元理事長、医師)
- 〃 林 覚乗 (元副理事長、南蔵院住職)
- 〃 平島 郁夫 (元常務理事)

敬称略、2018年7月27日現在

後援会役員紹介

- 会長 小川 弘毅 (西部ガス(株)相談役)
- 副会長 遠藤 泰昭 (九州電力(株) 上席執行役員)
- 副会長 林 覚乗 (元福岡いのちの電話副理事長 顧問 南蔵院住職)
- 理事 鬼塚 活人 (福岡北ライオンズクラブ会長)
- 理事 出光 芳秀 ((株)新出光 代表取締役会長)
- 理事 長柄 均 (福岡市医師会会長・医療法人ながら医院理事長)
- 理事 川原 武浩 ((株)ふくや代表取締役社長)
- 理事 西川ともゑ ((株)博多石焼 大阪屋代表取締役会長)
- 理事 柴戸 隆成 ((株)福岡銀行 代表取締役頭取)
- 理事 有村 文章 (福岡平成ロータリークラブ会長)
- 理事 寺崎 一雄 (テレビ西日本代表取締役会長)
- 理事 早川 元久 (西日本新聞社監査役)
- 理事 戸田康一郎 (西日本鉄道(株) 取締役執行役員)
- 理事 永守 良孝 (RKB毎日放送代表取締役会長)
- 理事 立花 英樹 (福岡商工会議所常務理事)
- 理事 鹿島 康宏 ((株)九電工 取締役常務執行役員)
- 理事 松田 和実 (福岡総合研究所所長)
- 理事 廣川 昌哉 (九州旅客鉄道(株) 常務取締役総務部長)
- 理事 白土 成孝 ((株)西日本シティ銀行 常務執行役員総務部長)
- 理事 山田 久雄 ((株)九州エース電研 代表取締役)
- 理事 稲村 鈴代 (弁護士 稲村法律事務所所長)
- 理事 和智 凧子 (弁護士)
- 監事 原田 光 (公認会計士)

敬称略、2018年7月27日現在



第42期生養成講座閉講式が開催されました

9月1日(土)に行われた閉講式では、林幹男理事長から2年間の養成講座を終えた42期生(13名)に、電話ボランティア員としての委嘱状が授与されました。(閉講式を終えての感想を以下に紹介します。)

2年前に始まった養成講座は、知見や経験が豊富な講師陣による講義、サポーターの先輩方とのロールプレイ、その後約1年の電話相談実習と進んできました。初めてのことに戸惑うこともありましたが、同期の仲間と励まし合い、また共に楽しみながら過ごした時間のすべてが有意義でした。変化、成長し、皆それぞれがより魅力的になったように感じます。講師、サポーター、スーパーバイザー、事務局、先輩相談員の皆様に心より感謝します。

通話者の話を聴き始めると、電話の向こうに私たちの想像をはるかに超える深遠な世界があること、そこで懸命に生きる通話者がいることに気付かされました。また、閉講式では、インターネットやSNSでの相談が増えている時代にあって、受話器から聞こえる通話者の言葉や声、時に沈黙や息遣いを通して通話者を感じる電話相談の意義を確かめ合いました。

いのちの電話は、自殺の危機にある人や孤独の中にあ

る人にボランティア相談員が寄り添い、温かい気持ちで親身になって聴く活動をしています。通話者との一回限りの通話。

その瞬間を共有することの大切さを改めて感じます。常に学び、常に心身を整え、仲間と共に、1日でも長く相談員を続けていきたいと思っています。これからもどうぞよろしく願いいたします。

(Y. T)



閉講式の様子

第43期養成講座宿泊研修が行われました

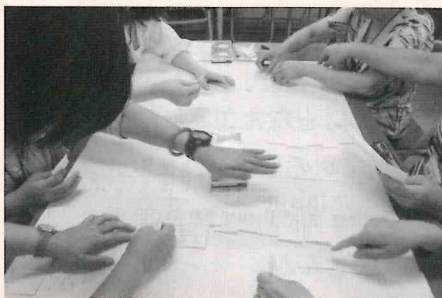
7月28日(土)、29日(日)の2日間、第43期生の養成講座「人間関係訓練Ⅱ」が1泊で行われました。対象者13名が参加しました。

宿泊研修を終えて思うこと

(第43期生 F. A)

例年になく暑い盛りの時に、電話ボランティア養成講座の2度目の宿泊研修に参加させていただきました。1度目は、まだ顔と名前が一致しない同期の皆さまの人柄に少し触れられた初めての機会でしたが、2度目は、1年間共に学んできた仲間同士としての達成感や一つの区切り、何か集大成のような感覚がありました。

研修では「養成講座で感じたこと」をテーマに皆の意見を出し合い、グループ毎に模造紙にまとめたのですが、私が参加したグループは、それを一本の「木」として表現しました。養成講座で学んだこと、不安に思っていること、ロール



養成講座宿泊研修の様様です

プレイで緊張したことなどを肥やしのように木の根元に置き、これから失敗や不安、傷つくような嵐が来ても、先輩ボラ

ンティアはじめ同期の仲間に支えられ、自分自身の成長、ボランティアの喜びという花や実となっていければとの願いを込めた「木」の姿です。

いよいよ養成講座パート1の終わりが見えてきた今、いのちの電話の応募に思い至った1年程前のことを思い出しました。というのも、私は以前、眠れぬ夜にいのちの電話にかけたことがありました。夜中に誰にも相談できず、いのちの電話を思い出してかけたのですが、話途中で繋がりませんでした。電話をかけたという行動と、話し中という現実にあふと我に返って、「今まさに相談している方がいるんだ」と思うと、急に気持ちが落ち着いて眠ることができました。ボランティアに応募したのは、一人でも多く電話に繋がってほしいという思いからでした。これからもその時の気持ちを忘れずに、細く長く続けていけたらいいなと思っています。

第44期ボランティア募集に電話ボランティア14名、事業ボランティア1名の応募がありました。

10月3日(水)が養成講座開講式です。

リレー 随 想 第13回

福岡いのちの電話理事
松原 妙子
(警固法律事務所 弁護士)



「残された者」

私が直接知っている方ですが、この3年間に3人もの方が自殺されたのです。全員60歳以下で、若い方は30代でした。自殺をした方の真意は分かりません。

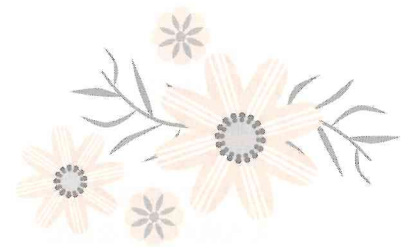
遺された4人の子全員が学生という方もおられました。家族を心から愛されていました。婚姻後、なかなか子宝に恵まれず、子供が成長するにつれ、週末を子供と遊ぶために大好きなゴルフを止めた方もおられました。そのお子様は医学部に入学されたばかりで、父として喜んでいただろうに、と思います。奥様と幼い子を残した方もいました。

ご本人とは面識があって、飲んだり、話したりしたことはありますが、悩みを打ち明けられる程には親しくなかったもので、噂でしか事情は知り得ません。私はそれでも、直接知っている方だけに、どれ程苦しめたのか、自分にできることはなかったのか等悩み、苦しい日々を過ごしました。

ご家族には私以上に、なぜ気が付いてやれなかつ

たのか、自分に原因があったのでは等、自分を責め続ける日々が残されます。時間が経っているのにいまだに夫が自殺をしたことを認めようとしない奥様もおられます。気丈に振る舞われていますが、神経にまひが出られた家族の方もおられます。それ程、残された方は、苦しまれているのだと思います。自ら命を絶つことは、残された者をどれ程苦しめるか。

相談員の方々をはじめとして、いのちの電話に関わる者は、電話を掛けて来る方だけではなく、その周囲にいる親族、友人等までも救う活動をしているのであり、大切な役割だと思えます。少しでも泣く人を減らせたらという思いで、今後もいのちの電話の活動に尽力させていただきたいと心から思っています。



自殺!? ちょっと待って!

—思いとどまってもらうために—

自殺防止公開講座

- ◆ 11月11日(日)14時~16時15分
- ◆ 都久志会館ホール(福岡市天神)
- ◆ 参加費 無料

「こころと身体の叫びを聴く」

講師; 久保 千春氏(九州大学総長)

ストレスの多い現代は、どなたでもこころや身体のバランスが壊れているかもしれません。もっと自身に耳を傾けて自分のことを知り、心身の健康をはかりませんか。



9月10～16日は自殺予防週間

福岡県と合同で街頭啓発を行いました

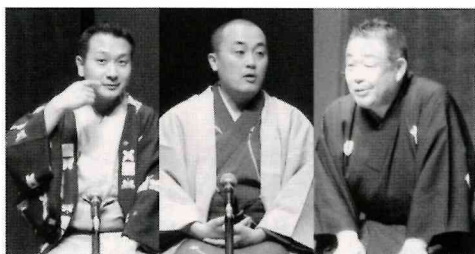
9月10日午前7時30分からJR博多駅前広場にて、事業ボランティア員6名が福岡県職員とともに啓発活動を行いました。通行人に手渡した配布物の中には「福岡いのちの電話」の周知カードも入れていただきました。

自殺予防週間は「自殺対策基本法」に定められたもので、厚生労働省が自殺についての誤解や偏見をなくすことを目的に、国及び地方公共団体、関係団体、民間団体が連携し自殺予防に取り組んでいるものです。悩みを抱えた人と電話で繋がることを願っています。



恒例

猛暑を笑いでとばす「里帰り納涼寄席」



8月6日(月)、福岡市市民福祉プラザホールにて恒例となった納涼寄席を開演しました。福岡県人隊の噺家3人(写真左から、笑福亭呂好、桂そうば、桂梅團治)の軽妙な噺は、会場は暑さも忘れたい笑いの連続でした。来年も寄席の実施が決まりました。楽しみにお待ちしております。

イオン幸せの黄色いレシートに参加しています

イオン店舗では、毎月11日に買い物レシートが黄色で発行されます。これは地域団体支援として行われているもので、買い物をした人は登録団体の箱にこのレシートを投函します。団体は集まったレシート合計金額の1パーセントを買い物できる仕組みです。

「福岡いのちの電話」は、2018年9月からイオンショッピング福岡店、10月からイオンスーパーセンター志摩店に登録しています。「福岡いのちの電話」の広報と実利をかねて申請しました。皆さまもお買い物時には心がけていただきますようお願いいたします。



予告

チャリティコンサート

11月30日(金)19時開演 九州キリスト教会館にて

出演 Insheart (インスハート)

現役医師音楽ユニットが贈る「いのちのうた」コンサートです。精神科医と形成外科医の2人は、医療だけでなく歌を通して心を癒やしたいと2005年に結成。命や家族の絆をテーマとした楽曲を作り、病院や施設でのボランティアライブなどで活動中です。



ご援助 ありがとうございます

寄附感謝報告 2018年6月1日～8月31日（敬称略・順不同）

上記の期間に次の方々からご支援を賜りました。感謝をもってご報告させていただきます。

*このご寄附には所得税、県・市民税に関して寄附金控除が適用されます。

また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。



千人会				法人会	
五斗美代子	10,000	宮岡達也(宮岡皮膚科)	10,000	(株)開聖リアルエステート	30,000
匿名	10,000	田中みさこ	10,000	九州八重洲(株)	30,000
有高謙一	10,000	的野恭一	10,000	越智産業(株)	30,000
高石彰也(正円寺)	10,000	荒木靖邦(あらきファミリー歯科)	10,000	(株)ふくや	50,000
野田フミコ(福岡県更生保健女性連盟)	10,000	安武清勝	10,000	アズビル金門(株)	30,000
白石克明	10,000	稲村鈴代(弁護士)	10,000	(株)九電工	99,460
佐藤好史	10,000	元山浩貴((医)もとやま小児科クリニック)	10,000	一般社団法人 福岡市医師会	30,000
高岸智也(高岸小児科医院)	10,000	野島一彦	10,000	(株)西日本シティ銀行	100,000
納富育代	10,000	本山智敬	10,000	(株)新出光	100,000
船越睦子	10,000	賛助会		九州旅客鉄道(株)	100,000
吉田義一	10,000	錦織靖子	3,000	(株)九州エース電研	300,000



JR篠栗線「城戸南蔵院前」駅入口の自販機

設置されたコカ・コーラ自動販売機

オリジナル「支援自販機」設置をお願いします

企業、団体から、販売収益の全額または一部をご寄附いただく「自販機支援募金」として自販機設置のご協力をいただいています。ご利用いただく皆様からも、間接的に福岡いのちの電話を支援していただくこととなります。おかげさまで多くの支援募金をいただいております。ありがとうございます。



リンナイ(株)九州支社	30,000	新開映子	1,000
(株)マルタイ	30,000	田中サヨ子	1,000
九州石井運輸(株)	30,000	塚本カツ子	1,000
九電産業(株)	30,000	南雲イツ子	1,000
西日本技術開発(株)	30,000	田中 潤	300,000
(株)サイブモーターズ	30,000	小山田浩定(総合メディカル(株))	100,000
西部ガス(株)	200,000	九州電力(株)	200,000
(株)福岡銀行	100,000	岩本瑠璃子	100,000
(株)電気ビル	30,000	吉川修示	50,000
九州朝日放送(株)	60,000	関根敏子	4,000
西日本鉄道(株)	100,000	野島一彦	20,000
拓新産業(株)	30,000	金子英次	20,000
		執行好子	20,000
		牛島範夫	20,000
		SFC	3,443
寄附金			
青木れい子	5,000		
家入良子	5,000		

補助金

福岡市 5,000,000

コカ・コーラ支援自販機

(株)紙谷 朝日新聞鳥栖販売店	11,931
(財)恵愛団(九州大学病院内)	101,009
西部ガス(株)(パピヨン24内)	155,441
(有)ダイキ通信工業(自社内)	22,186
南蔵院(JR城戸南蔵院駅)	36,564
(株)西日本新聞社(本社)	38,010
(株)西日本新聞社(製作センター)	7,280
(株)福岡住宅センター (鳥飼1丁目パーキング)	5,320

**ご寄附は下記の振込先までお願いします**

銀行口座：口座名義＝社会福祉法人 福岡いのちの電話
 福岡銀行赤坂門支店 (普) 1147617
 西日本シティ銀行天神支店 (普) 2131458

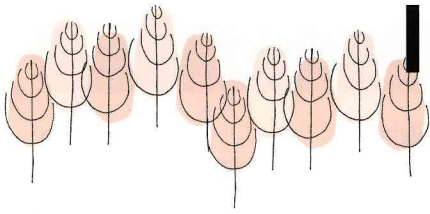
郵便口座：福岡いのちの電話千人会(千人会) 01710-1-36652
 福岡いのちの電話(賛助会員・一般寄附) 01720-9-1037

千人会 1口1万円/年(何口でも)
 賛助会 1口2千円/年(〃)
 法人会 1口3万円/年(〃)

ご面倒をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

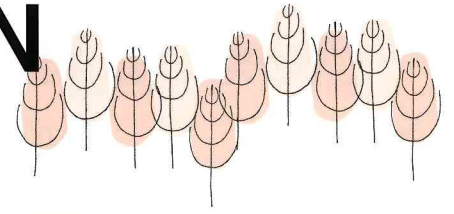
税制の優遇措置があります

社会福祉法人の認可を受けておりますので、寄附をされた場合、法人の場合は損金扱いに、個人の場合は年間所得の25%まで寄附控除が受けられるといった、税制上の優遇措置の対象となります。また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。



INFORMATION

インフォメーション



日誌 2018.6.1~2018.8.31

6月

- 1 会報134号企画会議
- 2 インターネット相談活動班会
- 6 定時評議員会
第43期養成講座
(講師：衛藤 暢明氏)
広報活動班会
- 8 事業ボランティア企画づくり会
- 9 研修運営班会
社会資源班会
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 12 事業ボランティア手づくり会
- 14 相談活動運営委員会
- 19 事務局会議
- 20 受信資料検討班会
第3回教育委員会
第43期養成講座(演習④)
- 23 九州沖縄地区研修担当者会議(福岡)
- 25 第3回理事会
- 26 事業ボランティア手づくり会
- 30 自主研修「ケースと私」

7月

- 3 第43期養成講座
(講師：松浦 賢長氏)
- 7 事業ボランティア企画づくり会
第31回会員総会
(コンサート、総会、懇親会)
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 12 福岡市監査
相談活動運営委員会
- 13 後援会会計監査
- 14 研修運営班会
- 15 インターネット相談運営委員会(東京)
- 15~16 電話ボランティア養成サポーター継続・新規研修
- 18 第43期養成講座(演習⑤)
- 19 第4回理事会
- 20 第4回教育委員会
- 21~22 福岡エリアインターネット相談員養成研修(福岡)
- 24 事業ボランティア手づくり会
- 25 受信資料検討班会
- 26 事務局会議

27 後援会・法人合同役員会

- 28~29 第43期養成講座(宿泊研修)
(講師：林 幹男氏)
- 30 広報班会

8月

- 4 自主研修「ケースと私」
- 6 第43期養成講座
(講師：五斗 美代子氏)
チャリティイベント「里帰り納涼寄席」
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 14 事務局会議
会報135号企画会議
- 21 広報班会
- 22 第43期養成講座
(講師：松尾 公孝氏)
- 28 事業ボランティア手づくり会
第5回理事会
- 29 第5回教育委員会
教育委員・養成サポーター交流会

【編】集【後】記【

9月10日から16日までは、国や地方自治体、関係団体、民間団体が連携し、援助を求める人への支援を強化する「自殺予防週間」で、9月10日に博多駅前啓発活動を行いました。福岡いのちの電話では、日頃から啓発活動を地道に続けていますが、認知度がどこまで浸透しているのかが課題だと思います。そのような中、今回幸せの黄色いレシートの取組みに参加することとなりました。市民の認知度がレシートの数に反映されれば、一つのバロメーターとなるのかもしれない。

今号のリレーエッセーでは、自死遺族の苦悩が、そして巻頭言では、自殺願望が悪用された方々の遺族の苦悩が語られていました。家族だからこそ、いずれも厳しい、そして考えさせられるテーマだと思います。

巻頭言での「悪意に引き込まれる偶然を排し、善意に出会うことを必然とできないものか。」という言葉はとても重いものだと思います。伝えたい人に伝わらないもどかしさ。その現実を私たちが前にしています。福岡いのちの電話や自殺予防に関わるさまざまな活動の認知度が高まり、より多くの悩みを抱える人たちが、巻頭言で語られた「善意」に出会う機会が増えればと願うばかりです。

(K.S)

2018年6月~2018年8月

電話受付件数

受付件数	3039件
延べ相談員数	927人
延べ受信時間	102,689分

発行所

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-7-2F
社会福祉法人 福岡いのちの電話

TEL (092)713-4343・FAX (092)721-4343

ホームページアドレス
<http://www.f-inochi.org/>

発行人 林 幹男
編集人 古賀 俊次



この「会報」は共同募金の配分金で作成しています。